

## 1. 日本における不登校の小中学生の人数

文部科学省の最新調査（令和5年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」）によれば、**日本全国の小学校・中学校における不登校児童生徒数は34万6,482人に達しました**<sup>①</sup>。これは病気や経済的理由を除き年間30日以上登校しない児童生徒の数で、前年度（29万9,048人）から約4万7千人増加し、11年連続で増加して過去最多となっています<sup>①</sup>。小中学生全体に占める不登校児童生徒の割合も3.7%（前年3.2%）に上っています<sup>①</sup>。

## 2. 義務教育を十分に受けられなかった大人の人数

日本では**中学校卒業（中卒）を最終学歴とする成人**の割合が無視できない規模にあります。2020年実施の国勢調査（就業状態等基本集計）によれば、在学者等を除いた15歳以上人口の**約13.1%**、およそ8人に1人が中学校卒の学歴です<sup>②</sup>。これは義務教育終了段階（中卒）で学業を終えた人の割合を示しています。学歴が高校卒止まりの人々を感じる「学歴の壁」については、例えば東京商工会議所による調査（平成12年度、中小企業の新入社員対象）で**36.0%の回答者が就職活動で「学歴の壁を感じた」と報告されています**<sup>③</sup>。このように、高卒・中卒で学業を終えた人々の中には自身の学歴による不利を感じている層が相当数存在すると考えられます。

## 3. 大人の「学び直し」希望者の人数

社会人のリカレント教育（学び直し）への関心も高まっています。教育社会学者の分析によると、**30歳以上の成人で「学校に通い直したい」と希望している人は約536万人**にのぼる一方、実際に学校等に在籍して学んでいる人は約12万人に過ぎません<sup>④</sup>。これは希望者の実現率にするとわずか2.3%（約45人に1人）であり、多くの大人が学び直しを望みながらも実現できていない実態が示されています<sup>④</sup>。政府の世論調査でも30代以下の若年層を中心に「今後学習し直したい」と考える人の割合は高く、年代が上がるほど学習意欲が低下する傾向が報告されています<sup>⑤ ⑥</sup>。以上のように、**数百万人規模の社会人が再教育を希望していること**が最新データから読み取れます。

**参考文献・データ出典：** 文部科学省<sup>①</sup>、総務省統計局（国勢調査）<sup>②</sup>、東京商工会議所<sup>③</sup>、内閣府世論調査・国勢調査の分析<sup>④ ⑦</sup>。

---

① 令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果 概要

[https://www.mext.go.jp/content/20241031-mxt\\_jidou02-100002753\\_2\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20241031-mxt_jidou02-100002753_2_2.pdf)

② 中卒者は何人に一人？年代別の割合や就職・年収の現実を解説 | 高卒認定試験お役立ちコラム | 高認合格ナビ

<https://koninshiken-navi.net/contents/column/chuusotsu-wariai>

③ 平成12年度 中堅・中小企業新入社員の意識調査結果 | 調査 | 調査・ガイドライン | 東京商工会議所

<https://www.tokyo-cci.or.jp/page.jsp?id=13995>

④ ⑤ ⑥ ⑦ 社会人の学び直しの機会が閉ざされた、日本の「リカレント教育」の貧相な実態 | ニュースウィーク日本版 オフィシャルサイト

[https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2022/01/post-97934\\_2.php](https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2022/01/post-97934_2.php)